

# 「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年4月14日（水） NO3 文責 木下 文秋

## 質を落とさない

高城中に来て2週間が経ちました。学校にはそれぞれ独特の文化や伝統があって、微妙な違いを感じて最初は戸惑いがありました。少し慣れてきました。そんな中で生徒にどうしても贈りたいメッセージがあります。それは「質を落とさない」ということです。これは高城中に赴任する前の学校でもずっと思っていたことです。コロナの影響で多くの行事が制限を受けてきました。

それでも、それぞれの学校が工夫を凝らし質を落とすことなく体育大会や文化祭をやっているのを見てきたと思います。質とは考え方によって色々です。行事の質、学校の質、生徒の質等々。高城中の生徒はもっともっとできるのに、その力を発揮していないと感じています。これまで自分ではこれくらいが当たり前と思っていた質が、本当は意外と低かったりすることがあります。毎朝、生徒玄関に立ちますが、私が期待する元気なあいさつには至っていません。皆さんはあいさつをしているつもりだと思いますが、あいさつに質があるとしたら、今のあなたのあいさつはどうですか？「元気なあいさつをする」ことができるようになれば、人間としての質もきっと高まると信じてやみません。社会人になって最も大事なことは「あいさつをする」「返事ができる」「時間を守る」ことです。人から信頼され期待される人はこの3つが完璧にできる人。これに間違いはありません。皆さんは、TPOという言葉を知っていますか。Time（時）Place（場所）Occasion（場合）の頭文字です。時と場所、場合に応じた服装や行動をすることを意味します。休み時間に奇声をあげたり、場にふさわしくない服装をしたりするのは一個人ではなく学校としての質を下げます。中学校は、社会に出るための基礎基本を身につける準備期間です。

その準備を通して、皆さんがこれまで「これくらいが私のスタンダード（標準）」だと思っていたことが、実ははたから見ればそうではないこともあります。高城中の生徒の皆さんには、自分の学校、自分の言動に誇り（プライド）をもって欲しいと願います。高校に行って「どこの中学校から来たの？」と聞かれたとき、自信を持って大きな声で「高城中学校です！」と言って欲しい。そのために充実した学校生活を送らせるのが我々の努めだと考えます。私は皆さんが「質を落とさない」ことを意識するだけで、学校も自分自身も変えることができると思っています。